

日本福祉教育・ボランティア学習学会

第32回おおさか大会 開催要項

1. テーマ

「ほっとかれへん！子どもたちの未来、私たちの未来」

2. 大会趣旨

第32回おおさか大会は、「ほっとかれへん！子どもたちの未来、私たちの未来」をテーマに開催いたします。「ほっとかれへん」という大阪弁には、目の前の出来事や生きづらさを他人事として切り離すのではなく、自らの問いとして引き受け、誰かと共に考え、行動していこうとする大阪の文化的感性が息づいています。本大会では、この感性を手がかりに、子どもたちの未来を「守るべきもの」として捉えるのではなく、子どもたち自身が社会に働きかけ、未来を共に創り出す主体であるという視点に立って議論を深めていきたいと考えています。

現代の日本社会は、少子高齢化と人口減少、貧困や環境問題、自然災害の激甚化、労働やジェンダーをめぐる課題など、複雑で深刻な問題が幾重にも重なり合う状況にあります。世界的にもナショナリズムの進行や分断・排除の論理が強まる中で、子どもたちを取り巻く社会環境は不安定さを増しています。学校や地域の現場では、不登校やいじめ、子どもの自死、多文化をルーツにもつ子どもたちへの対応など、さまざまな困難が可視化され、私たち大人や社会の在り方そのものが問い直されています。

しかし、困難な状況に置かれている子どもたちは、決して「支援されるだけの存在」ではありません。子どもたちは、自らの経験や声を通して社会の矛盾や課題を鋭く照らし出し、周囲の大人や他者と関わり合いながら、新たな価値や関係性を生み出す力をもっています。福祉教育・ボランティア学習の営みは、子どもも社会の一員として参画し、学び合いの中で自らの可能性を発揮し、社会を変えていくプロセスそのものを支える実践であるべきです。

本学会は、一人ひとりの生命の尊厳が守られ、誰もが自分らしく生きられる共生社会の構築を最上位の理念に掲げ、福祉教育・ボランティア学習を、「市民が主体的に社会づくりへ参画する学び」と捉えています。研究者と実践者が協働することで、社会正義の実現と新たな福祉文化の創造を目指し、地域課題の解決を担う市民の育成を大切にしています。福祉と教育の専門性を尊重しつつ、学際的・実践的な協働を通して、孤独や社会的孤立に抗う取り組みを積み重ねてきました。最も重視してきたのは、当事者の声に耳を傾け、関係性の中で力を育み合うエンパワメントの視点です。子どもたちを含む一人ひとりが、自らの経験を意味あるものとして語り、他者とながらながら社会に働きかけていく力を育むことこそが、福祉教育・ボランティア学習の根幹であると考えます。

このような理念のもと、おおさか大会では、大阪の「地・知・智」を生かしながら、「あたりまえ」とされてきた既成概念や固定観念を批判的に問い直し、子ども・若者・大人が立場を超えて学び合い、共に社会を創り変えていく福祉教育・ボランティア学習の可能性を探究します。子どもたちを未来の担い手として一方向的に位置づけるのではなく、「今ここ」を生きる主体として捉え、その実践や知を通して、私たち自身の生き方や社会の在り方を問い返す場としたいと考えています。

ぜひ「おおさか」に集い、子どもたちと、そして私たち自身と共に、現在・未来の〈しあわせといのち〉を育む福祉教育・ボランティア学習実践の在り方を語り合い、次の社会へとつなげていきましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

3. 主 催

日本福祉教育・ボランティア学習学会
第32回おおさか大会実行委員会

4. 後 援（計画中）

大阪府・大阪府教育委員会・大阪市・堺市・堺市教育委員会・羽曳野市・羽曳野市教育委員会・全国
社会福祉協議会・大阪府社会福祉協議会・大阪市社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会・羽曳野市社
会福祉協議会・大阪府民生委員児童委員協議会連合会・大阪府民生委員児童委員協議会・堺市民生委
員児童委員協議会・大阪府市町村社会福祉協議会連合会・大阪ボランティア協会・大阪社会福祉士会

5. 日 程

2026（令和8）年 11月28日（土）～29日（日）

6. 会 場

四天王寺大学（大阪羽曳野市学園前3-2-1）

7. プログラム

※前日に開催いたします「福・V学会 × 全社協 協同企画 2026」については、3ページを
ご確認ください。

■大会1日目（11月28日（土））

9:00～	受 付
10:00～11:30	学会企画 ふく・ボラサロン 「ふくし教育の『問い』について考えよう！」
11:30～12:30	ランチセッション
13:00～13:15	開 会 式
13:15～14:00	基調報告 テーマ「誰もが希望のもてる未来を共に創る〈ふくし〉の学びの可能性 ～多様な当事者性のつながり・越境・拡張」 諏訪 徹（日本福祉教育・ボランティア学習学会会長）
14:15～17:00	分 科 会 ○学会企画 課題別研究（3分科会） ①インクルーシブボランティア：『誰もが参加できる』を目指して ②社協職員の福祉教育実践における価値の言語化 ～多様な実践の蓄積から 紡ぎだす基盤としての価値～ ③パブリックスティグマ低減に向けた福祉教育モデルの構築 ○おおさか企画（2分科会） ④～生徒を「ほっとけへん」学校をどう作るか～校内カフェと地域連携の深化 ⑤多様な主体による福祉教育・ボランティア学習
17:15	移 動（会員以外で情報交換会の方〈会場行きバス〉）
17:30	会員総会
総会終了後	移 動（会員総会参加で情報交換会参加の方〈会場行きバス〉）
19:00	情報交換会（道明寺天満宮天寿殿）

■大会2日目 (11月29日(日))

9:00~12:00 自由研究発表

口頭発表

ポスター発表

12:00 休憩

13:00 第32回大会総合シンポジウム

「実践と研究の交差を探究する福祉教育・ボランティア学習」

I. 教育とふくしの邂逅を紡ぐ福祉教育・ボランティア学習-学校内居場所の実践

実践者報告者：NPO 法人 FAIRROAD 理事長 阪上 由香 氏

指定コメンテーター：千里金蘭大学教育学部 谷村 綾子 氏

II. 障害当事者によるグローバル視点での福祉教育・ボランティア学習

- 「助けられる客体」から「社会を変える主体」への転換 -

実践者報告者：

NPO 法人自立生活支援センター 夢宙センター 代表・理事長 平下 耕三 氏

指定コメンテーター：日本福祉大学社会福祉学部准教授 小林 洋司 氏(本学会副会長)

統括コメンテーター：

豊中市社会福祉協議会参与兼コミュニティソーシャルワーカー総括 勝部 麗子 氏

東北福祉大学総合福祉学部准教授 大石 剛史 氏 (本学会事務局長)

日本福祉大学社会福祉学部教授 川島ゆり子 氏 (本学会副会長)

コーディネーター：

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 氏 (理事・おおさか大会実行委員長)

15:30 閉会式

16:00 閉会

8. プログラム内容

▼福・V学会 × 全社協 協同企画 2026

- 【開催日】 2026(令和8)年11月27日(金) 13:30~17:30 (16:35~情報交換会)
- 【会場】 大阪社会福祉指導センター 研修室3 (大阪府中央区中寺1-1-54 4階)
- 【テーマ】 推進員さん、学会員さん! 大阪へ! 「いらっしや〜い!!」
ほっとかれへんプラットフォーム ~語り合いで福祉教育のしかけをひも解く~
- 【趣旨】 福祉教育実践のプログラムづくりや福祉教育推進プラットフォームでの協同について、
大会開催地の事例から、皆で学びを深め合います。あわせて、福祉教育推進員と学会員の
出合いを促す機会とします。
- 【共催】 日本福祉教育・ボランティア学習学会
全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター
- 【参加対象】 学会員・福祉教育推進員・関心のある方はどなたでも
- 【参加費】 500円 (情報交換会費含む/当日集金)
- 【定員】 60名 ※会場の都合上、先着順とさせていただきます。
- 【申込】 <https://forms.gle/zcHKnr4xfwi7y23M7> (右記2次元コードからアクセス可)
※11月13日(金) 正午〆切(先着順) ☆学会大会とは別申込が必要です



【タイムテーブル】

時間	(分)	内容
13:30～13:45	15	開会・オリエンテーション
13:45～14:15	30	福祉教育推進員による事例発表（話題提供）① 大阪府・門真市社会福祉協議会 野村 千恵 さん
14:15～14:45	30	福祉教育推進員による事例発表（話題提供）② 大阪府・泉佐野市社会福祉協議会 印具 政弥 さん
14:45～15:10	25	事例を読み解く
15:10～15:25	15	休憩
15:25～16:10	45	グループワーク 〈内容〉 自己紹介／感想／「私」が福祉教育を実践・研究するにあたって「ほっとかれへん」と考えているもの
16:10～16:30	20	グループ発表、まとめ
16:30～16:35	5	休憩
16:35～17:25	50	情報交換会
17:25～17:30	5	終わりのあいさつ

▼ 1 日目（11月28日（土））

● ふく・ボラサロン

☆ テーマ 「ふくし教育の『問い』について考えよう！」

ふく・ボラサロンは、福祉教育・ボランティア学習に関わる実践者・研究者が所属や研究領域を越えて集まり、日頃の実践や研究にかける想いや悩みを共有しながら交流する場です。初めて学会に参加される方や知り合いの少ない方が気軽に参加できる場づくりを大切にしています。本年度は「ふくし教育の『問い』について考えよう！」と題したサロンを開催します。ふくし教育研究における「問い」をどのようにして立てればよいか、ふくし教育実践においてどのような「問い」を投げかけるのかなど、ふくし教育における「問い」をテーマに、それぞれの立場から抱えている「問い」や関心を持ち寄り、学び合う場になりたいと考えています。非会員の方や初めて参加される方も大歓迎です！ふくし教育実践を進めるためのヒントを得たい方、研究の種を探している方、同じ志をもつ仲間と出会いたい方など、ぜひお気軽にご参加ください！

●ランチセッション

『研究・論文作成における倫理的配慮とは』

近年、研究実践、論文投稿における倫理的配慮の問題が、強く意識されるようになっていきます。多くの大学等研究機関においても、「ヒトを対象とする研究倫理」に関する審査が厳格化される傾向にあります。本学会では、研究機関に属さない会員も多いことを念頭にしつつ、2019年に「学会研究紀要論文投稿に関する倫理ガイドライン」を策定しました。その後の大会報告、投稿論文においては、倫理的配慮に関する事項を明示することとなっています。

今大会では、昨年度に引き続き、機関誌編集委員会と研究・倫理委員会の共催で、「研究・論文作成における倫理的配慮」に関するランチセッションを開催します。倫理的配慮に関する会員の疑問や不安を持ち寄り、学会内外の好適例に学ぶ機会を設け、学会全体として、投稿論文における研究倫理について、もう一段の高みを目指そうとするものです。

「論文投稿にあたって、『倫理的配慮』とは何が求められているのか」、「そもそも実践研究における『倫理的配慮』とは」など、素朴な疑問をお持ちの会員のみなさんのご参加をお待ちしております。

【世話人】機関誌編集委員：山田 一隆（東海大学）、高木 寛之（山梨県立大学）
研究・倫理委員会：松山 毅（順天堂大学）

●開会式

あいさつ

学会長あいさつ 諏訪 徹（日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会長）
大会長あいさつ 須原 祥二（四天王寺大学 学長）

●基調報告

☆テーマ

『誰もが希望のもてる未来を共に創る〈ふくし〉の学びの可能性
～多様な当事者性のつながり・越境・拡張』

☆趣 旨

今、私たちは、格差が一層拡大し、政治的な分断や紛争、暮らしと環境の破壊が進行しかねない岐路に直面しています。そのような未来を、決して子どもたちに残してはいけません。

福祉教育・ボランティア学習は、一人ひとり異なる私の多様な当事者性が出会い、つながりあうことで、私たちのふだんのくらしのしあわせ（〈ふくし〉=well-being）を一緒に創りだしていく、学びと実践です。〈ふくし〉を希求するさまざまな世代の人々の当事者性が出会い、つながり、実践が越境、拡張することで、〈ふくし〉から取り残された人々を生み出す社会・経済の構造を草の根から変革しようとする〈ふくし〉の学びの可能性を、皆さんと一緒に考えたいと思います。

日本福祉教育・ボランティア学習学会
学会長 諏訪 徹（日本大学文理学部教授）

●分科会（5分科会）

☆課題別研究〔学会企画〕

①「インクルーシブボランティア：『誰もが参加できる』を目指して」

インクルーシブボランティア論の到達点—3年間の探究から捉え直す、インクルーシブボランティアの構造と可能性—

インクルーシブボランティアとは、年齢や国籍、病気、障害の有無等にかかわらず、活動を希望する誰もが適切な合理的配慮のもと、その人に合った多様な形で参加できるボランティア活動を指す。本研究では、福祉教育・ボランティア学習という研究枠組みで、実践発のこのインクルーシブボランティアという概念を実践知として実質化することをめざすと共に、本学会で積み上げてきた「当事者性」研究との接続がどのような形で可能なのかを模索してきた。最終年となる今年度の大会研究会では、実践発のこの研究について、改めて優れた実践をベースに探求し、当事者性研究との接続によって、どんな社会課題とのどのような形、距離の向き合い方が見えてくるのか、仮説の提示とその検証を行う。

【登壇者】世話人から選定中

【世話人】青山織衣（大阪ボランティア協会）／岩田貞昭（大阪人間科学大学）／岩本裕子（関西国際大学）／後藤聡美（神戸大学）／永井美佳（大阪ボランティア協会）／南多恵子（関西福祉科学大学）／村上貴栄（兵庫大学）／妻鹿ふみ子（神奈川大学非常勤）（五十音順）

②「社協職員の福祉教育実践における価値の言語化 ～多様な実践の蓄積から紡ぎだす基盤としての価値～」

前回大会では、社協職員が持つべき価値として、“住民と地域課題を共有すること”、“話し合いを通じた地域づくりを目指す姿勢”が浮かび上がった。その結果をさらに分析し、社協職員の福祉教育実践の価値の13の分析軸を設定した。

今年度の研究では、この軸を用いて、社協職員の実践事例を分析した。その結果、設定した13の軸はそれぞれ個別に意識されるだけでなく、複数の軸を相互に関係させた実践が意識されていることが明らかになってきた。

今回大会では、13の分析軸とその設定プロセスを参加者と共有し、実践事例分析をワークショップ形式で行う。設定した分析軸の妥当性を検証するとともに、福祉教育実践の価値の言語化をさらに深めたい。

【世話人】梅木博志（横浜市社会福祉協議会）／伊藤光洋（江南市社会福祉協議会）／井上正太郎（宮崎県社会福祉協議会）／大石剛史（東北福祉大学）／川島ゆり子（日本福祉大学）／坂本大輔（登別市社会福祉協議会）／渋谷篤男（日本福祉大学）／高木寛之（山梨県立大学）／畑清美（三田市社会福祉協議会）／牧野大樹（横浜市社会福祉協議会）

③「パブリックスティグマ低減に向けた福祉教育モデルの構築」

本研究は、パブリックスティグマの低減に向けた福祉教育の可能性を理論的・実証的に明らかにし、インクルーシブな社会の実現に資する効果的な福祉教育モデルを構築することを目的とする。パブリックスティグマは、特定の属性をもつ人々への否定的イメージや偏見を生み、尊厳や社会参加を妨げる課題である。先行研究では教育や当事者との接触が低減に有効とされるが、具体的な教育方法や学習過程は十分検討されていない。そこで本研究では、福祉教育における教育と接触の要素に着目し、スティグマ低減に有効な実践モデルを検討する。

【世話人】松本すみ子（東京国際大学）小林洋司（日本福祉大学）／川田虎男（埼玉県立大学）

☆おおさか企画【実行委員会企画】

④おおさか企画1「～生徒を「ほっとけへん」学校をどう作るか～校内カフェと地域連携の深化」

現在、子どもたちが抱える課題は複雑化しており、従来の「教育」という枠組みだけでは支援が困難なケースが増加している。本企画は、学校教育に社会福祉的アプローチを融合させ、学校を「学びの場」であると同時に「セーフティネット」として構築していく意味と方法を大阪府の高校の実践例から考える。

大阪府立高校の「校内居場所カフェ」は従来拾いきれなかった潜在的なSOSを早期にキャッチすると同時に、生徒をエンパワーする場としての力を持つ。また、それはチーム学校の機能として「カフェ」を運営するNPO、さらにSCやSSWが、教職員と有機的に連携する体制を構築してきた。十年に及ぶ経緯に触れながら、生徒、教職員、NPO、さらに学校そのものや教育行政がどう変わってきたを考え、学校教育と福祉教育の協同のあり方について対話する。

【登壇者】 大阪府立西成高等学校 校長 山田 勝治 氏
大阪府立西成高等学校 首席 森 ゆみ子 氏
Office ドーナツトーク スタッフ 奥田 沙穂 氏
大阪府教育庁教育振興室高等学校課 指導主事 船橋 遼 氏

【コーディネーター】 追手門学院大学特任教授 平野 智之 氏

⑤おおさか企画2「多様な主体による福祉教育・ボランティア学習」

近年、福祉教育・ボランティア学習は学校教育にとどまらず、地域住民、民生委員・児童委員、NPO、企業、当事者など多様な主体が担う地域実践として広がりを見せている。地域には、「ほっとかれへん」という思いを原動力に、人びとが出会い、つながり、共に学び合いながら主体を形成する実践が生まれている。また、当事者の参画は支援者や地域住民の意識変容を促し、学びが相互に生まれる「学びの可逆性」をもたらしている。

本企画では、大阪における実践事例をもとに、地域を基盤とした福祉教育・ボランティア学習の意義や主体形成のプロセス、コーディネーションの役割を検討する。あわせて、地域福祉実践との接続や、地域共生社会、自治、司法、人権等との関係を議論し、福祉教育研究の新たな可能性を展望する。

【登壇者】 寝屋川市社会福祉協議会 杉谷 嘉紀 氏
ボランティアポイント実行委員会 園田 茂香 氏
交野市社会福祉協議会 各務 正敏 氏
家っしー運営協議会 野村 恭子 氏・谷口 千穂 氏

【コメンテーター】 摂南大学 講師 上野山 裕士 氏

【コーディネーター】 佛教大学 准教授 金田 喜弘 氏

▼2日目（11月29日（日））

●自由研究発表（口頭・ポスター）

- ① 概念・原理・歴史・政策
- ② 学校を中心とした展開
- ③ 高等学校を中心とした展開
- ④ 大学を中心とした展開

- ⑤ 地域・施設・社協を中心とした展開
- ⑥ 実践プログラム・評価に関する報告
- ⑦ 海外の動向などに関する報告

※申込方法は 11 ページ「自由研究発表者へのご案内」をご覧ください。

●大会総合シンポジウム

本学会は、さまざまな福祉教育・ボランティア学習実践に内在する価値や理念を、学際的かつ批判的に捉え直し、新たな知を創造することを使命としてきた。本シンポジウムでは、実践報告者、指定コメンテーター、総括コメンテーター、そして会場参加者との対話を通して、実践と研究が交差する学びの場を共創し、実践知と研究知が響き合う中で、共生の文化を育む福祉教育・ボランティア学習の意義と可能性を共有し、次なる実践と研究の創出へとつなげる契機としたい。

【登壇者】

I. 教育とふくしの邂逅を紡ぐ福祉教育・ボランティア学習ー学校内居場所の実践

実践者報告者：NPO 法人 FAIRROAD 理事長 阪上 由香 氏

指定コメンテーター：千里金蘭大学教育学部教授 谷村 綾子 氏（会員）

II. 障害当事者によるグローバル視点での福祉教育・ボランティア学習

ー「助けられる客体」から「社会を変える主体」への転換ー

実践者報告者：NPO 法人自立生活支援センター 夢宙センター代表・理事長 平下 耕三 氏

指定コメンテーター：日本福祉大学社会福祉学部准教授 小林 洋司 氏（本学会副会長）

統括コメンテーター：

豊中市社会福祉協議会参与兼コミュニティソーシャルワーカー総括 勝部 麗子 氏（会員）

東北福祉大学総合福祉学部准教授 大石 剛史 氏（本学会事務局長）

日本福祉大学社会福祉学部教授 川島 ゆり子 氏（本学会副会長）

コーディネーター：

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 氏（本学会理事・本大会実行委員長）

●大会発表賞表彰式

※大会発表表彰の選考方法は、13 ページ「大会発表賞のご案内」をご確認ください。

●閉会式

大会実行委員長あいさつ 新崎 国広（ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰・本学会理事）

学会副会長あいさつ

次年度開催地あいさつ

9. 大会申込・参加

大会参加費

両日参加（会員）	6,000 円
両日参加（非会員）	7,000 円
1 日のみ参加（非会員）	4,000 円
学生参加（会員）	2,000 円
学生参加（非会員）	3,000 円
情報交換会	8,000 円

- (1) おおさか大会の申し込みはWEB決済システム（Peatix：ピーティックス）を利用いたします。

参加申込先 <https://peatix.com/event/5087542>

（右記2次元コードからもアクセス可→）



☆お申し込み時、Peatix の登録が必要です。

☆ Peatix の操作方法（新規登録・大会申し込み）について動画にてご案内しておりますので、必要に応じてご参照ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=pBTCCDvTRvQ>

（右記2次元コードからもアクセス可→）



なお、フォーム入力が難しい場合は、メールでも対応可能です。下記事務局までご連絡ください。

- (2) 団体会員の場合も、申込は個人単位で行ってください。（システムの都合上、銀行振り込みの場合は申込者ごとに口座番号が異なります）
- (3) 情報保障や保育を希望される方は、大会事務局にメールでお問い合わせください。（10月31日まで）
- (4) 申込・振込期限は、2026（令和8）年10月31日（土）です。
- (5) 大会申し込みに際して「請求書」が必要な際には、指定の入力フォームでご連絡ください。

請求書入力フォーム <https://forms.gle/TmQHpcW1uSjfrQdu8>

- (6) Peatix でご入金後、同システム上でも電子領収書の発行が可能です。大会当日の受付時に大会事務局として「大会参加費」と「情報交換会費」を分けた領収書（紙）を発行いたします。
- (7) 入金後の参加費（参加費・情報交換会代等を含む）の返金に対応しておりません。
あらかじめご了承ください。なお、参加申し込みをされて当日ご欠席の場合は後日報告要旨集をお送りします。
- (8) 大会参加の際には事前の大会申込・参加費申し込みにご協力ください。
- (9) 自由研究発表（口頭・ポスター）の詳細及び申込については、11 ページをご確認ください。
また発表者が確定した段階で本おおさか大会ホームページにプログラムを掲載いたします。
- (10) 大会申込で取得しました個人情報は取り扱いに十分注意し、本大会の参加者管理以外の目的では使用しません。
- (11) 大会参加者のみなさまには大会当日、報告要旨集 1 冊をお渡しいたします。なお、追加で報告要旨集の購入を希望される方は、1 冊 2,000 円で頒布いたします。ご希望の方は大会終了日までにフォームでご連絡ください。

<https://forms.gle/Z8jvwVWmCa7tjxGYA>

（右記2次元コードからもアクセス可→）



10. 連絡事項

〈情報交換会について〉

- ・大会1日目の情報交換会は学会会場より移動し、道明寺天満宮天寿殿（藤井寺市）で行います。
- ・学会ご参加の皆様は、学会会場から送迎バス（無料）でご案内いたします（学会会場から乗車時間約15分）。

なお、バス定員の都合により1便目（17時15分出発予定）は学会総会にご参加されない方、2便目（学会総会終了後）は学会総会にご参加される方の乗車とさせていただきます。道明寺天満宮は1400年以上歴史のあるお宮です。1便目ご乗車の方はよろしければご拝観ください。

（なお、情報交換会終了後は現地解散となります。近鉄南大阪線道明寺駅まで徒歩約5分程度です）

（会場）

道明寺天満宮

大阪府藤井寺市道明寺1-16-40



〈昼食について〉

- ・大会1日目（11月28日（土））の昼食時は、会場校の学内食堂は営業しています（11時～14時まで）。ただしメニューは麺類や丼等の簡易なメニューとなっております。
- ・大会2日目の昼食時に、会場近隣の障がい者就労支援事業所「こくり」による「こくりの牛すじカレー」（600円）を発売いたします。利用者の方による手づくりのカレーで、地域の公共施設にも出店されている店舗です。ぜひご賞味ください。（代金は当日支払いですが、ご希望の方は食数確保のため大会申込時のチェック欄にチェックをお願いいたします）。

〈学会会場までのアクセスについて〉（大会要項11ページ参照）

- ・学会大会会場（四天王寺大学）は、近鉄南大阪線藤井寺駅からバスで移動となります（路線バス、乗車時間約15分）。
- ・大会1日目（11月28日（土））は路線バスをご利用ください。
- ・大会2日目（11月29日（日））は学会会場までの臨時直行バスを近鉄藤井寺駅から運行いたします（有料）。なお、臨時バスの時刻表についてはダイヤ確定後、学会大会ホームページおよび大会1日目配布資料でご案内いたします。
- ・学会会場には無料駐車場を完備しておりますのでご利用ください。
- ・会場である四天王寺大学の入口は正門1か所のみです。受付は正門ご入場後、8号館で行います。

〈宿泊について〉

- ・今回の大会の宿泊は各自手配となりますので、お早めに手配をお願いいたします。
- ・学会大会会場周辺に宿泊施設はありません。会場最寄駅の近鉄南大阪線藤井寺駅へは、近鉄大阪阿部野橋駅（JR天王寺駅隣接）から準急で14分程度ですので、ご宿泊されます方は天王寺駅周辺でご予約されることをおすすめいたします。

1 1. 会場・アクセス

四天王寺大学（本キャンパス）

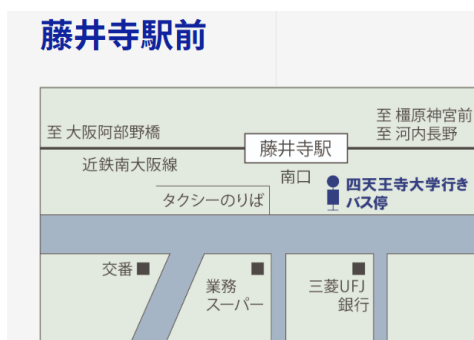
お車の方は2次元コードをご参照ください

大阪府羽曳野市学園前3-2-1



ゆき

藤井寺駅前→四天王寺大学 バス



土曜ダイヤ（大会1日目）

土曜日用 [71][78] 四天王寺大学					
時刻					
6					
7	19	28	43	50	58
8	9	14	21	32	40 44 51
9	11	31	51		
10	6	11	26	31	51
11	6	11	26	31	46 51
12	11	51			
13	6	11	31	51	
14	11	31	51		
15	11	31	51		
16	31	51			
17	11	31	51		

日祝ダイヤ（大会2日目）

日祝用 [71][78] 四天王寺大学					
時刻					
6					
7					
8					
9	11	31	51		
10	11	31	51		
11	11	31	51		
12	11				
13	31	51			
14	11	31	51		
15	11	31	51		

11/29（日）のみ藤井寺駅前⇄四天王寺大学の臨時直行バス（有料）を運行いたします。
ダイヤは大会ホームページおよび大会1日目に配布するご案内をご覧ください。

バス代有料（片道310円） 所要時間：約15分

土曜ダイヤ（大会1日目）

日祝ダイヤ（大会2日目）

かえり

四天王寺大学→藤井寺駅前

土曜日用		
時刻	[60] 藤井寺駅前	[70] 藤井寺駅前
10	10 50	42
11	10 25	42
12	30 45 50	42
13	10 30 50	42
14	10 30 50	42
15	10 30	36 56
16	10	16 36 56
17		16 36 56
18		16 36 56
19		16 46

日祝用		
時刻	[60] 藤井寺駅前	[70] 藤井寺駅前
9		42
10		42
11		42
12		42
13	10 30 50	42
14	10 30 50	42
15	10 30 50	35 55
16		15 35 55
17		15 35 55

12. 大会事務局

日本福祉教育・ボランティア学習学会 第32回おおさか大会実行委員会

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3-2-1 四天王寺大学 吉田祐一郎研究室気付

メールアドレス fukuvolu@shitennoji.ac.jp (お問い合わせはメールでお願いいたします)

大会ホームページ <https://osakafusyakyo.or.jp/volunteer32thosaka/index.html>

右記2次元コードからもアクセス可→



その他、諸事情によりプログラム変更等が生じた際には、大会ホームページでお知らせするとともに、重要な情報についてはお申し込み時にご入力いただいたメールアドレスにメールをお送りいたします。

自由研究発表者へのご案内

1. 自由研究発表は「口頭発表」と「ポスター発表」の2つの形式があります。

- (1) 口頭発表は、発表時間20分、質疑応答10分で行う形式です。
- (2) ポスター発表は、所定の場所に3時間ポスターを掲示し、指定された時間内に在席して、質疑に
応答する形式です。
- (3) いずれの発表も、学会の発表として認められます。

2. 発表者の資格について

- (1) 自由研究の発表者は、本学会の会員に限ります。ただし共同研究の場合、連名者は非学会員でも
かまいません。
 - (2) 自由研究発表者は、下記の要件を満たしている必要があります。
 - ①自由研究発表者は、本学会の会員であること。
 - ②上記①の本学会会員は、10月1日（木）までに2026年度の学会年会費を納入していること。
 - ③発表申込及び発表要旨原稿登録を、10月1日（木）までに済ませていること。
 - (3) 非学会員で自由研究発表を希望する方は、9月1日（火）までに本学会への入会手続きを行って
ください。
- ※入会については、学会ホームページ (<https://jaass.jp>) をご覧ください。

3. 発表の申し込み

- ①自由研究発表希望者は、グーグルフォーム (<https://forms.gle/8QCRr3um5TBJjJnc9>) でエン
トリーしてください（締切：2026年10月1日）。
- ②エントリー後、発表要旨原稿を大会要項14ページに記載の通りご提出ください。

4. 原稿の執筆について

- (1) 自由研究発表希望者は大会当日に配布する報告要旨集への掲載原稿をご提出ください。原稿様
式は、大会ホームページ（大阪府社会福祉協議会ホームページ内 [https://www.osakafusyakyo.
or.jp/volunteer32thosaka/index.html](https://www.osakafusyakyo.or.jp/volunteer32thosaka/index.html)）からダウンロードできます。
- (2) 提出された原稿は、研究倫理、様式等を確認したうえで、版下としてそのまま印刷・製本します。
- (3) 執筆原稿は、「自由研究発表の原稿様式」を参照のうえ、作成してください。
- (4) 原稿量は1つの発表につきA4判用紙2枚です。字数・行数は、1枚につき40字×40行を、
余白は、上下左右2cmを原則とします。
- (5) 1枚目の原稿の上部枠内に、①発表演題名、②所属、③発表者名、④連名者名を明記してくださ
い。連名者がいる場合は、発表者の名前の前に○印をつけてください。発表者は1名とします。
また、同一会場で2コマ以上連続して発表する場合は、発表の順序がわかるように、発表演題名
の後に（その1）（その2）という体裁で記入してください。ただし、連続した報告は2コマま
でとします。
- (6) 原稿は、①研究の目的、②研究の方法、③倫理的配慮、④研究の結果、⑤考察という基本的な
枠組みを示して、簡潔明瞭に執筆してください。結果、考察について「当日資料配付」という
未完成の原稿は認められません。必ず結果・考察まで記載してください。発表原稿の枠組みが
不十分な場合は、原稿の差し替えをお願いする場合があります。

5. 原稿の提出

- (1) 発表要旨原稿の提出期限は、10月1日（水）です。
- (2) 発表要旨原稿（Word形式）は、学会大会事務局（fukuvolu@shitennoji.ac.jp）へメールで提出してください。様式は、大会ホームページにて掲載しています。
- (3) 提出された原稿は、原則としてそのまま要旨集の版下として印刷します。
- (4) 自由研究発表のプログラムは大会前に発行される学会ニュースに掲載されます。

6. 口頭発表での視聴覚機器の使用及び当日配布資料の準備等

- (1) 口頭発表でのプロジェクター等の視聴覚機器は使用可能です（パソコンについては各自でご持参ください。主催者側で用意するHDMIケーブルを用いて接続可能です）。使用有無については各自でご判断ください。いずれの場合も、参加者へ配付する紙の資料（50部程度）は各自でご準備ください。主催者側では印刷できません。
- (2) 8：30に各教室に集合し、配布資料及び発表資料を司会者と確認（倫理チェック等）してください。
- (3) 配布資料は、発表が始まる15分前までに会場の係にお渡しください。

7. ポスター発表の方法及び当日配布資料の準備等

- (1) ポスター発表会場内の所定の場所（後日指示します）に、11月29日（日）9時までに学会会場内の発表指定位置にポスターを各自で掲示してください。9：30～10：30に発表してください。ポスターは、12：00にはがしてください。
- (2) 掲示範囲は、縦160cm・横90cmです。ポスターの大きさは、この範囲で遵守してください。
- (3) ポスターの最上部に、発表タイトル・発表者名・所属を明記してください。
- (4) 参加者に配布する資料がある場合は、適宜、参加者にお渡しください。

大会発表賞のご案内

日本福祉教育・ボランティア学習学会では、自由研究発表において独創的かつ将来性のある優れた口頭発表をされた方に対して、大会発表賞を贈っています。選考結果は、大会時に発表し、広く公表されます。選考対象者となる資格（条件）を有し、かつ選考対象者として自己申告された方が、大会発表賞の選考対象者となります。

以下の概要を参考にして、自由研究発表申込書に必要事項を記載して、選考対象者としての申告を行ってください。

1. 対象について

選考対象者の資格は、自由研究発表者のうち、次の（１）及び（２）に該当する者が有する。

（１）次の①から④のうち、いずれか一つの条件に該当する者。

①大学院修士課程または博士課程に在学中の者

②修士課程修了後１３年以内の者 *

③最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後１５年以内の者 *

*②及び③の卒業月の末日から起算する。（例）大学院３月修了の場合は３月３１日を修了の日とし、１３年後の３月３１日まで資格を有する。

④実践者としての経験を有し、本学会の通算在籍期間が１０年に満たない者。

（２）自由研究発表申し込み時に選考対象者として自己申告をした者。

（３）上記条件の該当者であっても過去に大会発表賞を受賞した者は対象から外す。

2. 選考について

（１）選考では、①及び②を審査の対象とする。

①大会要旨集に掲載された発表資料

②発表時の内容（当日配布された追加資料がある場合はそれを含む）及び質疑での回答

（２）選考方法

①自由研究発表分科会会場の司会者による評価・投票

②本学会員による評価・投票 ③大会事務局の協力のもとに、①及び②による投票用紙を回収し、選考委員会が開票する。各候補者の平均点・投票数をもとに計算式（平均点＋投票数×０.１）によって順位をつけ、原則として３名以内を大会発表賞受賞者とする。

3. 結果発表について

発表は原則として、大会閉会式に選考委員会が行う。

以上、日本福祉教育・ボランティア学習学会大会発表賞規定及び大会発表賞細則にもとづき選考を行います。

発表演題名

○ ▲▲▲▲大学 大阪 水都 (00-0000)
▲▲▲▲大学 関西 花子 (11-1111)
■市社会福祉協議会 四天 太子 (非会員)

1 研究の目的

***** 明朝10ポイント *****

2 研究の方法

***** 明朝10ポイント *****

3 倫理的配慮

***** 明朝 10 ポイント *****

4 研究の結果

***** 明朝 10 ポイント *****

5 考察

***** 明朝 10 ポイント *****

【引用文献】